

令和6年度 学校関係者評価書

令和7年3月4日
春日部市立江戸川小中学校

1 本年度の学校経営の重点目標に対する取組

<p>(1) 確かな学力の向上</p> <p>① 各ステージの学習指導の指針を次の通り設定する。 ジュニアステージ：主に学習内容と学び方の基礎を身に付ける。ミドルステージ：主に基礎的・基本的な学習内容を身に付け、意欲的に学ぶ態度を涵養する。 ハイステージ：身に付けた基礎的・基本的な学習内容を土台にして発展的な課題解決力や主体的に学ぶ態度を高める。</p> <p>② 9年間の系統性や連続性を踏まえた各教科等の年間指導計画を作成し活用する。</p> <p>③ 授業のねらいを児童生徒に明示し、児童生徒の学習状況によりよく応じる手立てを準備した授業を実践する。</p> <p>④ 教材や指導方法（令和6年度は「知識構成型ジグソー法」：前年度から継続）等に関する組織的な研究を推進し授業改善を促進する。</p> <p>⑤ 次の事項を授業力向上の重点事項とする。 ● Chromebookの効果的な活用 ● 協働的な学習形態[知識構成型ジグソー法]の積極的な導入と活動 ● 導入課題(問題)の吟味 ● 相互授業参観と学力向上教科の各期間の設定 ● 各種学力調査結果の分析と指導方法の工夫への活用</p> <p>⑥ 発達段階に即した「家庭学習の手引き」の作成とその活用による家庭学習の習慣化。</p> <p>(2) 豊かな心の醸成</p> <p>① 積極的な生徒指導とプッシュ型の家庭との連携によって、児童生徒の心地よい居場所づくりに注力する。</p> <p>② 児童生徒に対する「見守り」「ことば掛け(励まし・称賛・承認・受容・助言)」の充実を図る。</p> <p>③ 児童生徒の道徳実践力の向上を目指して、特に次の点に留意した道徳教育に取り組む。 ● 一人一人を大切にされた教育活動(授業等) ● 教材の吟味や開発と議論する道徳を実現する指導法の研究 ● 後期課程道徳における学年担当全教員(輪番制かつTT)による授業実践</p> <p>④ 夢を育む豊かな体験的な学習活動の充実のために次に取り組む。 ● 地域のよさや魅力を理解し、伝統行事に積極的に参加してそれを継承しようとする態度と実践力の涵養 ● 人としての優しさを醸成するボランティア活動の奨励</p> <p>⑤ 自身の適性を知り、夢を抱き実現を目指すとする生き方に気付く多様な体験的な学習活動の整備</p> <p>⑥ 児童生徒の自律性、協調性、献身性、リーダー性等の涵養促進。 ● 後期課程学級活動における学年担当全教員(TT)による授業実践</p> <p>(3) たくましく生きる体力の向上</p> <p>① 様々な感染予防対策の徹底を図る。</p> <p>② 体育的な諸活動の適切な質と量を担保する。</p> <p>③ 外部専門機関との連携によって、前期課程水泳指導の充実を図る。</p> <p>④ 部活動の質的な充実を目指す。</p> <p>(4) 家庭・地域と学校の協働</p> <p>① 学校運営協議会の機能を生かした質の高い学校運営の推進。</p> <p>② 適時適切な保護者との連携の充実。</p> <p>③ 適時性のある情報発信や情報提供をHPや配信メールによって実現する。</p> <p>④ 各種アンケートの実施等によって学校に対する保護者の期待についての把握に努める。</p> <p>⑤ 学校運営協議会、学校後援会、及びPTA等の各組織のネットワーク化を図り、次の事項に焦点を当てて教育課程[社会に開かれた教育課程]の充実を促進する。 ● 地域の伝統・歴史(祭礼、史跡) ● 地域人財(教育力) ● スクールバス運行に係る関係課所、子供の安全を守る会、及びPATと確実な連携と調整を図って児童生徒の安全を確保する。</p> <p>⑦ 学校評価及び学校関係者評価の各結果を反映した学校運営上の改善を促進する。</p>

2 学校評価結果に対する学校関係者評価

1...C 2~3...B 4~5...A

領域	評価項目	学校評価			学校関係者評価 [学校評価と改善策への評価]
		達成状況	領域評価	来年度の改善の重点	
確かな学力の育成	学習内容が身につく授業を実践している。	A	A	(1)ICTの活用 ・一人一台学習用端末の効果的な活用をさらに充実させていく。 (2)主体的・対話的な学びの充実 ・協働的な学習形態を効果的に活用する。 (3)学びの系統性を重視した授業改善 ・9年間の学びを連続的、系統的に展開する授業改善を進めて行く。 ・「わかるまで」学びに向かう力を育む等、家庭学習を充実させ、基礎・基本を定着させる。 (4)読書活動の推進 ・図書を活用した活動の充実を更に推進する。	A
	児童生徒がわかるまで・できるまで丁寧に指導をしている。	A			
	問題解決的な学習となる授業を実践している。	A			
	授業にICT機器を効果的に取り入れている。	A			
	児童生徒の情報活用能力を高めている。	A			
	授業では協働的な学習形態を取り入れている。	A			
	児童生徒が進んで読書できるように方策を講じている。	B			
	家庭学習が充実できるように方策を講じている。	B			
学校関係者評価者による意見(何かございましたらご記入ください)					
・「わかるまで」学びに向かう力をどのように育むのかについて、家庭との連携として、保護者への啓発(講演会等)を行うのも良いのではないか。 ・児童生徒が自分の意見を積極的に発表できている。 ・一步一步学習に力を入れてほしい。「こころの強い」児童生徒になってほしい。 ・リモートやICTでの取組が増えている今だからこそ、体験的な授業を充実させてほしい。 ・読書の取組では、保護者との連携を細く長く工夫してほしい。また、さらに読書への興味・関心を持たせる工夫も行っていく。					
豊かな心を育む教育	自他を大切にしている児童生徒を育成に努めている。	A	A	(1)寄り添う支援の推進 ・子供や保護者のことばに耳を傾け、寄り添った支援を組織的に進める。 (2)「悩み事」「進路や将来の生き方」への指導 ・アンケート調査等を活用して早期発見し、早期対応に向けて教員全体で情報を共有し、より最適な支援を講じる。 (3)よりよい人間関係作り ・生徒指導委員会、教育相談委員会を更に機能させる。 (4)特別支援学級との連携 ・児童生徒の個別の教育的ニーズに応じた支援方法の共有を図る。	A
	人権意識を高める指導をしている。	A			
	命の大切さや社会のルールについてくり返し指導している。	A			
	児童生徒一人一人の心に寄り添い、悩みごと等への相談を適切に行っている。	B			
	キャリア教育について、それぞれの段階に応じて計画的に指導している。	B			
学校関係者評価者による意見(何かございましたらご記入ください)					
・学校と地域との関わりは強くなってきているが、家庭の関わりも増やしていくとよいのでは。・命の大切さや自然の大切さなどこれからも素直に学習してほしい。 ・江戸川小中の児童生徒は「あいさつ」をよくしてくれている。 ・保護者児童生徒のアンケート結果より悩みごとについての相談体制の更なる改善が必要である。 ・丁寧な対応がなされている。					
健やかな体の育成	体育の授業や「全校なわとびチャレンジ」を充実させ、児童生徒の体力向上に努めている。	A	A	(1)体力向上を目指した活動の推進 ・全校なわとびチャレンジ、すくすくプログラムの活動の改善点を修正して実施する。 (2)安全に対する意識の向上 ・家庭との連携による防災訓練の実施 ・地域・関係課と連携した防災教育の実施 (3)食育の推進 家庭科教諭を中心に指導の充実を推進する。	A
	発達段階に応じて計画的に保健指導を行っている。	A			
	発達段階に応じて計画的に食育指導を行なっている	A			
	災害や事故への危機意識をもって安全指導や避難訓練等を行っている。	A			
	日常の安全点検を心がけ、安全な環境を整えている。	A			
学校関係者評価者による意見(何かございましたらご記入ください)					
・後期課程の生徒への災害時の救命救急指導や地域の集会への参加 ・体力の向上について、様々な環境の変化へどのように対応していくかが課題である。児童生徒自身が主体的に体力向上をできるような力を育ててほしい。 ・家での過ごし方、自己管理ができる児童生徒の育成が必要である。					
家庭・地域との連携	保護者や地域人材、地域資源を取り入れた学習活動を実施している。	A	A	(1)学校運営協議会を核とする「江戸川小中ネットワーク」の拡充を図る。 (2)学校保健委員会の場の活用。 (3)ホームページ、コミュニティ・スクール通信、学校だより等による情報発信の充実 (4)異学年交流や学習の実施方法の工夫と充実	A
	保護者や地域の方が参観・参加できる機会を計画的に設定している。	A			
	異学年交流などの義務教育学校の特色を生かした指導を実践している。	A			
	学級だより等により、児童生徒のようすを家庭(や地域)へ発信している。	A			
	学校関係者評価者による意見(何かございましたらご記入ください)				
・活発にできている。児童生徒の多方面に興味を抱ききっかけの一つとなっている。 ・地域との交流があり、学校だよりやコミュニテースクール通信の回覧があるので、学校の様子がよく分かった。 ・積極的に関わりを持ってくれる地域の方をさらに増やすような協力体制を充実させていく。					